



ウトナイ湖通信

No.169

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

「春のウトナイ湖・ウォークラリー」を開催しました

春の自然を楽しんでいただくこのイベント。あいにく天候には恵まれなかったものの、7日間に147組385人の参加がありました。当センターでの受付後、1周約500メートルの自然観察路をゆっくり歩きながら、設置した8問のクイズに挑戦。設問はウトナイの春の自然、特に植物に関するもので、五感を使い、じっくりと観察して解くようになっています。ゴールで答え合わせをし、参加賞としてウォークラリー限定のシールを、全問正解の方には、特製のしおりをお渡ししました。次回は夏の自然をテーマに行う予定です。楽しいクイズを用意しますので、どうぞお楽しみに。



よ〜く観察して、ウトナイの自然に関するクイズに挑戦！



センターでゴール。
答え合わせの後、シールかしおりをプレゼント

ヒナを拾わないで！～野鳥の子育て応援を

これから8月にかけては、野鳥たちの子育てシーズン。大きく育ったヒナたちはまだ上手に飛べない状態で巣立つことも多く、転がるように落ちて地面でじっとしていることがあります。

じつはこんな時も親鳥が近くにいて、食べ物を運んだり安全な場所へ導いたりしていることが多いのです。明らかにケガや病気ではないのに「かわいそう」と地面にいる巣立ちヒナを拾ってしまうのは、親鳥から引き離してしまうことになりかねません。見つけたときは、遠くからしばらくそっと見守ることを基本にしてください。それが、野鳥の子育てを応援することにつながります。



キャンペーンポスター

★(公財)日本野鳥の会は、(公財)日本鳥類保護連盟、NPO 法人野生動物救護獣医師協会との共催で「ヒナを拾わないで!!キャンペーン」を実施しており、ポスターは当センター内にも掲示しています。



巣立ったばかりのハクセキレイ





シジュウカラ

【自然観察路情報】

2018年5月17日(木) 10:00~11:30

観察された生きもの

《野鳥》

ヨシガモ、コガモ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オジロワシ
コゲラ、アカゲラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ
センダイムシクイ、コサメビタキ、カワラヒワ、アオジ

《植物》

メギ、セイヨウタンポポ、オオヤマフスマ、セントウソウ、マイヅルソウ、キジムシロ
タチツボスミレ、シロスミレ(以上、花)、ズミ、オオアマドコロ(以上、つばみ)
アキタブキ、イヌコリヤナギ、エゾニワトコ(以上、実やタネ)

《その他》

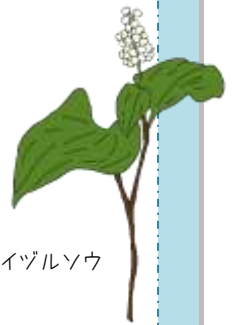
モンキチョウ、ハンノキハムシ



オジロワシ



アオジ



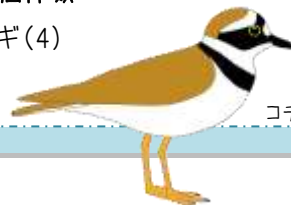
マイヅルソウ



モンキチョウ



アオサギ



コチドリ

【水鳥カウント調査結果】

2018年5月17日(木) 15:00~16:00

観察された水鳥、水辺の鳥、ワシ・タカ類 *()内は個体数

コブハクチョウ(6)、オオハクチョウ(1)、コガモ(33)、アオサギ(4)
コチドリ(1)、トビ(5)、オジロワシ(4)、チュウヒ(2)



6月の自然予報

夏鳥の顔ぶれが揃いました。樹木の葉が茂る前は、キビタキやクロツグミなどの姿を観察するのによい時期です。美しいさえずりもあわせて、楽しみましょう。

コムドリとニューナイスズメが当センターのまわりをうろちまわっています。建物を利用して繁殖するかも知れません。



アカハラ。さえずりが聞かれるのは早朝と夕方



青紫色のヒオウギアヤメ

樹木ではミヤマザクラやカンボク、草花ではユキザサやマイヅルソウなど白い花が目立ちます。自然観察路を白く彩るズミは昨年より開花が早く、上旬までが見頃でしょう。紅鈴蘭とも呼ばれるベニバナイチヤクソウは林床をピンク色に彩ります。

湖岸の自然観察路では、青紫色のヒオウギアヤメやカキツバタ、黄色いエゾキスゲなどの花に出合えるでしょう。

野鳥のさえずりをかき消すように、エゾハルゼミの声でにぎやかです。

水たまりでは、エゾアカガエルのオタマジャクシが小さなカエルとなって上陸するでしょう。



木の幹に残るエゾハルゼミの抜け殻

【ニホンカナヘビ】

名に「ヘビ」と付いていますが、じつはトカゲの仲間。成体は全長 20 センチほどになります。体の表面は、つるつるしたニホントカゲと異なり、ざらざらしています。林の中や草地に生息し、昆虫などを食べますが、当センターの外階段で見かけることもあります。



ウトナイ湖に関するクイズ。毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。あなたもウトナイ博士になれる？かも。

Q. ウトナイ湖周辺で6月に出現するトンボの仲間は、次のうちどれでしょう。

- (あ) ミツボシ (三星) トンボ
- (い) ヨツボシ (四星) トンボ
- (う) イツツボシ (五星) トンボ



答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

クロガモ

2018年 4月 12日 噴れ 8:50

苫小牧市内の住宅地で首にひもが巻き付いた状態で発見される。

体重 700g



首に巻き付いていたひも

収容

9:30頃 市職員が収容し、当センターへ搬送。直ちに首に巻き付いていたひもを切断し除去。ひもは畑の食害鳥獣除けのネットの様な性状で、なぜ首に巻き付いたのかは不明。全身の状態を確認したところ目立った外傷や衰弱も認められなかったため、海岸近くの河口で当日中にリリースした。

リリース



無事に海へと戻って行きました

クロガモ (カモ目カモ科)

北海道には冬鳥として飛来しますが、一部で繁殖も確認されているため、夏季でも観察できることがあります。普段は沖合いの海上で生活し、潜水して貝類やエビなどを、時に魚も食べます。繁殖期は淡水の湖や沼地に生息し、水域に近い草地に営巣します。雄の成鳥は全身が黒く、嘴の基部に黄色いこぶがあります。カモ科の鳥で羽の色がすべて黒いのはクロガモの雄の成鳥だけです。

イベント情報

ウトナイ湖・夏鳥ウォッチング

日時：6月3日(日)10:00~12:00

対象：どなたでも(小学生以下保護者同伴)

定員：申込み先着20名

内容：南の地方で冬を越していた夏鳥たちが渡ってきました。林や湖岸を散策しながら、センダイムシクイやキビタキなどの姿とさえずりを楽しみましょう。



お知らせ

エゾアカガエル(オタマジャクシ)を飼育展示中

今年も4月より、当センター内で飼育展示を行っています。オタマジャクシからカエルになるまでの様子を観察してください。また、スケッチしていただいたシートを「成長日記」として掲示中です。



市民ギャラリー

「美しき野鳥たち」写真展

日時：5月27日(日)~6月24日(日)

展示：小林 誠さん

「愛鳥週間用ポスター原画展」

日時：5月29日(火)~6月7日(木)

展示：苫小牧市環境生活課



◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時~午後5時 / 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

